

## 答申事由書

- 1 種 類 民俗文化財（無形）  
(おおくてしんめいはくさんじんじゃのだしぎょうじ)
- 2 名 称 大湫神明白山神社例祭の山車行事
- 3 員 数 (該当なし)
- 4 所 在 地 瑞浪市大湫町
- 5 保 持 団 体 大湫町神明白山神社例祭保存会
- 6 作者、年代及  
び由来伝説等 (該当なし)

## 7 事 由

大湫神明白山神社例祭は、瑞浪市大湫町内に所在する神明神社、白山神社の合同例祭で、毎年 10 月第一日曜に行われる。山車行事は、この例祭に合わせて行われ、山車及び神輿が町内を巡行・渡御する。

大湫町は瑞浪市北東部の丘陵地帯に位置し、近世には中山道の宿場として栄えた町で、尾張藩領であった。本例祭の由来は明らかでないが、かつては神明神社及び白山神社、八幡神社の三社の合同例祭で、毎年 8 月 15 日から 17 日にかけての 3 日間行われていたとされる。遅くとも天保年間（1830-43）には神輿が用いられた祭礼が行われており、明治 13 年（1880）に八幡神社が廃社となったことで二社の合同祭礼となり、明治時代後半頃に開催時期が 10 月に変更されたと考えられる。また、祭礼の開催日数は昭和 26 年（1951）に 2 日に、昭和 30 年頃に 1 日となり、昭和 41 年（1966）以降は開催日が 10 月第一日曜に固定されたものである。

祭礼当日は、朝から神明神社の前で囃子 3 曲が演奏されて例祭の始まりを告げ、神明神社で行われる神事でも伝統的な雅楽曲が演奏される。その後、主として地域住民により曳かれる山車を先頭として、神輿、神職や氏子等からなる行列が白山神社に向かう。白山神社での神事を終えた後、行列は町内を巡るが、この行列の移動中にも道行曲 4 曲が演奏される。行列は最終的に

白山神社を經由して、山車と神輿が神明神社に戻ると山車行事は終了する。なお、かつては子ども神輿も出されていたが、現在は行われていない。

礼祭の車山は、二層造りの名古屋型、素木造で、飾金具は付かず僅かに木装飾を有するのが特徴である。車輪は四輪で、車山の外側に取り付けられており、輪格子（輪掛）を付ける。祭礼時には向唐破風屋根の前後に御幣を取り付ける。一階（下層）には音楽を演奏する人たちが乗り、前面を除く三方を幕で覆うが、用いられる幕は三方を引き回して掛ける一枚物であり、古様な形であることも大きな特徴である。また、神輿は一般的な四角型で、祭礼時には屋根の蕨手から梶棒の間に鈴縄を付し、蕨手下部には瓔珞を吊るして飾る。

こうした山車の構造や祭礼音楽には、愛知県の名古屋や犬山との共通性がみられ、大湫の歴史的な条件から、本例祭が周辺地域の祭礼文化を取り入れつつ、独自の様式を形成してきたことが知られる。また、当該行事は本市で唯一の本格的な山車を用いる行事であり、祭礼の運行習俗などにも伝統性を濃厚に残すことなどは、当市における祭礼の変遷過程を示す事例として貴重である。